

# 第3章 しながわ観光のコンセプト・目標

## 3-1 コンセプト・目標

### ◆これまでの取組みの継承 ～都市型観光の継続的展開～

本プラン「1-2 しながわ観光の“これまで”」において述べたように、品川区ではこれまで、都市内の風情ある商店街や、都市内の憩いの場である水辺や公園、地区の祭事や史跡・旧跡といった、都市の暮らしに密着した身近な観光資源を“まち歩き”などを通じて楽しむという「都市型観光」を推進してきました。またこうした取組みを通じて、まち歩き観光の推進、案内拠点の整備など、着実な成果を挙げてきました。

今後の観光振興においてもこれまでの「都市型観光」を継承し、商店街や水辺・公園、史跡・旧跡といった身近な観光資源の魅力を高め、これらをより多くの人々が楽しめる仕組みや環境を充実させていくことが重要です。

### ◆まちづくりの一環としての観光振興 ～官民連携による観光まちづくりの推進～

上述した、生活環境を観光資源とする「都市型観光」を推進していくためには、観光に関わる事業者や行政のみならず、生活環境の主役である区民の方々との連携・協力が必要不可欠です。また、品川区における都市型観光は、事業者を中心とした観光産業の振興だけではなく、“まちづくりの一環としての観光”“区民も楽しめる観光”といった視点で進めていくことも重要であり、観光まちづくりを通じて、水辺や公園、商店街といった生活環境の質の向上と人々の賑わいの創出を図っていくことが重要です。

### ◆新たな時代への適切な対応 ～新たな顧客の獲得、五輪レガシーの活用～

一方、品川区とその周辺においては、羽田空港の国際化やビジネス需要の高まりなどの変化が起こっています、またさらに今後は、明治維新 150 周年（平成 30 年）や 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会（平成 32 年）などのビッグイベントが控えています。特に、品川区内にその競技会場が設けられる 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会は、外国人を含めた多くの人々に品川区の魅力を知ってもらう絶好の機会となるものです。

また平成 22 年の羽田空港国際線ターミナルの開業、平成 39 年に予定されているリニア中央新幹線・品川駅の開業を考えると、今後、品川区及びその周辺は首都・東京の玄関口としての役割がより一層求められるとともに、国内外からますます多くの人々が訪れることになると考えられます。

今後の品川区の観光振興においては、こうした機会や環境の変化を上手く活かして、国内外の多くの人に品川区の魅力を知ってもらい、新たな顧客、しながわファンの獲得を目指していくことが重要です。また2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に関しては、大会開催を通じて整備される施設や得られるノウハウ等を、観光振興のレガシー（未来への遺産）として役立てていくことも重要です。

### ◆繰り返し訪れて楽しい観光都市づくり

品川区の観光資源は、生活に密着したものであるが故に奥深い魅力があり、光のあて方によって様々な色に光り輝くダイヤモンドの原石のようなものです。また、水辺や公園、商店街、地域の祭礼といったように、気軽に何度も訪れることのできる観光資源が多いという特徴があります。このため品川区の観光振興においては、訪れるたびに新しい発見があるような、繰り返し訪れて楽しい観光都市を目指していくことが有効であると考えられます。

以上を踏まえ、しながわ観光のコンセプト・目標を以下のように定めます。

#### <しながわ観光のコンセプト・目標>

## 繰り返し訪れて楽しいまち しながわ

～日常の生活環境に着目した官民連携による都市型観光の推進～



## 3-2 計画期間

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会は大会期間中を通じて数多くの観光客が訪れるビッグイベントです。また開催にあたっては、国や東京都が中心となって様々な環境整備やプロモーションが行われる計画となっており、しながわ観光に与える影響は非常に大きいものと予想されます。

また2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に関しては、大会準備のみならず、開催によって得られるレガシー（未来への遺産）を、その後の観光振興に活かしていくことが重要であり、そのためには大会の前後を通じて一貫した考え方に基づいて観光振興に取り組むことが重要です。

以上を踏まえ、「品川区都市型観光プラン」の計画期間は、平成28年度（2016年度）～平成37年度（2025年度）の10年間とします。

また中間年がオリンピック・パラリンピック東京大会の開催年となるため、前期計画期間となる平成28年度～平成32年度をBefore五輪、後期計画期間となる平成33年度～平成37年度をAfter五輪と位置づけ、平成32年度末を目処に必要な応じて、オリンピック・パラリンピック東京大会の開催結果を踏まえた計画の見直しを行います。

### <計 画 期 間>

**平成28年度（2016年度）～平成37年度（2025年度）の10年間**

**前期計画期間（5年）：平成28年度～平成32年度** 【Before 五輪】

**後期計画期間（5年）：平成33年度～平成37年度** 【After 五輪】

※平成32年度末を目処に必要な応じて、オリンピック・パラリンピック東京大会（平成32年度開催）の開催結果を踏まえた計画の見直しを実施。

### 3-3 マーケット、ターゲットの考え方

品川区の都市型観光の特徴や近年の社会情勢の変化などを踏まえ、しながわ観光が今後特に重視していくべきマーケット、ターゲットの考え方を示します。

#### ◆品川区民や区内在勤・在学者、近隣区民、沿線市民

先述のとおり、品川区の都市型観光は、生活や暮らしに身近な資源を活用した観光振興が基本となります。このため、遠来のいわゆる観光客のみならず、品川区民や区内在勤・在学者、品川区を日常の生活圏としている近隣区民や鉄道沿線市民も、しながわ観光の大切な顧客と位置づけ、これらをターゲットとした観光振興に取り組んでいきます。

#### ◆ビジネス客（国内外からの東京への出張者）

品川区は、夜間人口よりも昼間人口の方が多く、ビジネスの街としての性格も有しています。また近隣には東京国際展示場などのコンベンション施設もあり、区内には多くのビジネス客の往来がみられます。このため、品川区の都市型観光においては、レジャー目的のいわゆる観光客のみならず、商用で東京を訪れるビジネス客についても大切な顧客と位置づけ、これらをターゲットとした観光振興に取り組んでいきます。

#### ◆外国人観光客

近年のアジア圏を中心とする訪日外国人観光客の増加や、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定を踏まえると、今後の観光振興においては外国人観光客の獲得に特に力を入れていくことが重要です。このため、外国人観光客もしながわ観光の主要なターゲットとして位置づけ、外国人観光客向けの観光プロモーションの実施やコンテンツの充実、受入れ体制の強化など、外国人観光客の獲得の取組みを積極的に推進していきます。

#### ◆シニア世代

品川区内には、神社仏閣や明治維新に関わる史跡などの歴史的資源や、東京有数の元気な商店街、潤いを感じられる水辺や公園等が区内各所に点在しており、こうした資源を活用した「まち歩き観光」は、品川区の都市型観光の大きな魅力の一つです。またこうした「まち歩き観光」は、近年の健康志向と相まってシニア世代に特に人気があると言えます。このため、今後の品川区の都市型観光の推進にあたっては、シニア世代にも注目して観光振興に取り組んでいきます。